

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 6月 14日

八戸市長 殿



提出者 高周波鋳造(株)

住 所 青森県八戸市沼館 4-7-108

氏 名 中尾 大輔

（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 0178-43-0127

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	高周波鋳造(株)
事業場の所在地	青森県八戸市沼館 4-7-108
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

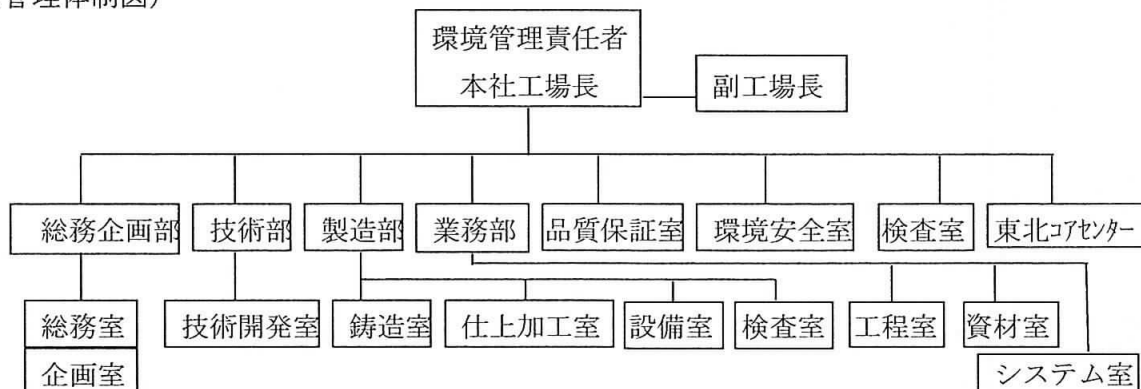
① 事業の種類	輸送用機械器具製造業
② 事業の規模	出荷額 9、680 百万円/年
③ 従業員数	346名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

（日本工業規格A列4番）

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 ( R3 年度) 実績】「別紙のとおり」	
	産業廃棄物の種類	—
	排 出 量	
	(これまでに実施した取組) ・ 産業廃棄物として処理していた集塵ダスト ( 鑄物砂ダスト) の一部を有価物 ( 肥料の造粒材) へ転換し有効利用を図っている。 ・ 埋立最終処分品の分別を進め、セメント原料化等のリサイクルの推進をし継続している。	
② 計画	【目標】「別紙のとおり」	
	産業廃棄物の種類	—
	排 出 量	
	(今後実施する予定の取組) ・ 集塵ダストの有価物としての有効利用を継続的に促進 ・ その他の産廃の有価物転換又はリサイクルを検討し、実施を図る ・ 廃棄物中の鉄分取出しを進め、自社原料として再利用化	

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状：鋳さい、陶磁器屑、廃プラ、木くず等の分別
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状：鋳さい、廃プラ、木くず等の分別を継続。 鋳さい中の鉄分の分離を更に進め有効利用化する。

## (第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（            年度）実績】—		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】—		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（            年度）実績】—		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】—		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

## (第4面)

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 年度）実績】—	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組)	
②計画	【目標】—	
	産業廃棄物の種類	—
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組)	

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 年度）実績】「別紙のとおり」	
	産業廃棄物の種類	
	全 処 理 委 託 量	t t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t t
	(これまでに実施した取組)	

(第5面)

②計画	【目標】「別紙のとおり」	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

①現状 前年度(令和3年度)実績

発生量の目標	①当該事業場において発生した産業廃棄物の量	②中間処理を直せざる直接再生利用した量	③中間処理をせざる直接埋立又は海洋投入した量	④自ら処理した産業廃棄物の中間処理前の量	⑤のうちの熱回収を行った量	⑥自ら中間処理した後の量	⑦の量から⑥の量を差し引いた量	⑧のうちの自ら利用し、又は他人に売却した量	⑨のうちの自ら埋立及び海洋投入した量	⑩中間処理及び最終処分を委託した量	⑪のうちの優良処理業者への委託量	⑫のうちの処理業者への再生利用委託量	⑬のうちの認定熱回収施設設置者への焼却処理委託量	⑭の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
鉍さい	銻物砂	8,668.7								8,668.7				
	スラグ	994.7								994.7				
廃プラスチック類	小計	9,663.4	0	0	0	0	0	0	0	9,663.4	0	8,624.7	0	0
	プラスチックくず	77.9	0	0	0	0	0.0	0	0	77.9	0	0.0	0	0
陶磁器くず	小計	264.8	0	0	0	0	0	0	0	264.8	0	264.8	0	0
	ガラス、レンガくず	264.8	0	0	0	0	0	0	0	264.8	0	264.8	0	0
木屑	小計	95.9	0	0	0	0	0	0	0	95.9	0	0.0	0	0
汚泥	小計	64.9	0	0	0	0	0	0	0	64.9	0	0	0	0
廃アルカリ液	小計	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0
合計	9,405	10,167	0	0	0	0	0	0	0	10,167	0	8,890	0	0

②計画 目標(令和4年度)

鉍さい	銻物砂	9,500								9,500.0				8,600
	スラグ	1,300								1,300.0				1,300
廃プラスチック類	小計	10,800	0	0	0	0	0	0	0	10,800.0	0	8,600	0	0
	プラスチックくず	70	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	0	0
陶磁器くず	小計	300	0	0	0	0	0	0	0	300.0	0	300.0	0	0
	ガラスレンガ屑	300	0	0	0	0	0	0	0	300.0	0	300.0	0	0
木屑	小計	70	0	0	0	0	0	0	0	70	0	0	0	0
汚泥	小計	60	0	0	0	0	0	0	0	60	0	0	0	0
廃アルカリ液	小計	5	0	0	0	0	0	0	0	5.0	0	0	0	0
合計	11,305	11,305	0	0	0	0	0	0	0	11,305	0	8,900	0	0